現代の貧困は見えにくいですが、
各種報道や指数から想像できます

溺れている人々に手を差伸べませんか

フードバンクの活動

フードバンクは 食品生産と製造・流通過程・小売り等で生まれる食品ロスを団体・個人から以下の条件で食品の寄贈を随時受けます。

① 加工食品は、残りの賞味期限が概ね１ヶ月以上で未開封のもの。
② 食品衛生上、自家製の加工食品は受け付けできません。
③ 食品の安心安全提供のため、匿名の寄贈や着払いの受付はできません。
④ フードバンクくるめとの合意書がご必要な場合、お申し出下さい。
⑤ フードバンクくるめの城島倉庫まで輸送は、大量の場合、自前のトラックを有しない現状では、ご提供者側にご負担をお願い致しますが、量的に個人の車で対応可能な場合には、受取りに出向きます。

寄贈された食品は城島倉庫に運ばれ、賞味期限の確認後、種類別にコンテナに入れ整理陳列棚に並べられます。その後、支援先団体に提供され、さらに困窮世帯へ配布されたり、子ども食堂などの食事に活用されます。

県内のフードバンク４団体は、2019年４月に福岡県とエフコープの支援を受け、一般社団法人 福岡県フードバンク協議会を設立し、新規の食品寄贈企業の開拓、寄付を受け入れ、フードバンク間連携を進めています。

フードバンク くるめ 2022

代表あいさつ

私は 2014年に幸い健康で還暦を迎えることができました。明治維新以来戦争に明け暮れてきた日本の近世にあって、70年を超えて戦争がなかった幸運の世代です。戦後世代の私たちは食糧難こそ体験しませんでしたが、社会全体が貧しかった時代を経験してきました。

この間、子どもの頃想いもしなかった科学技術の進歩・発達による物質や情報の恩恵に加え、医学の進歩の恩恵により、明治時代の平均寿命45歳に比べて２倍近い寿命も与えられています。

個人的には低い費用で高等教育が受けられ、一研究者として海外で働く機会にも恵まれました。その時、現在に至るアフリカの絶対的貧困も含め、世界の格差と貧困の一端をこの目で見ることができました。しかし、発達した先進国日本に無縁だと思っていた格差貧困問題が2008年頃から頻繁に報道されるようになり、2015年居住地域の自治会長を任された時、地域における見えない貧困を実感するようになりました。同年12月から始まった毎月２回の安武子ども食堂の運営にも積極的にかかわっています。

フードバンク という言葉は英国に住んでいる時から知ってはいましたが、2014年と2015年にフードバンク北九州の原田昌樹理事長の講演会を聞く機会があり、多くの聴衆と同様に私も「筑後地域にもあったらいいね」と思いました。しかし、希望だけでは収益性がまったく望めないこの事業は、いつまで経っても実現しません。そこで私は、母親の遺産を次世代への投資として、フードバンク事業の中核施設=倉庫の購入に充て、自らを叱咤し、ボランティアと運営資金の確保や近い将来の法人化など先々幾多の困難が予想される道を敢えて歩むことにしました。

私は こう考えます。意識するしないは別として、この世の中は先人たちの多くの善意=恩の先送りによって成り立っています。もちろん、先送りされたものの全てが善意とは限りません。戦災・国と地方の膨大な負債・核廃棄物など無責任に後世に先送りしてきた(いる)ものもあります。しかし、多くの有名無名の人々の善意に基づいているのは事実です。これら多くの“恩送り”を受けてきた私たちの世代も、私たちに続く世代へ「より良い社会とその仕組みを遺す」活動に自分のできる範囲で貢献しようではありませんか。特に人類が他の霊長類と違って、アフリカの密林から草原に進出する過程で、食を分け合い、互酬性を育み、世界中に拡散した人類進化の歴史を見れば、食の共有は人間性の根源のひとつなのですから。

浦川豊彦（くるめ革新懇世話人・獣医師・医博、t.urakawa@me.com ）

フードバンク くるめ

年間食品廃棄量
1,900万トン(~2,700万トン)
↓ 輸入食料の半分 111兆円
643万トン(~900万トン)
食べられるのに廃棄される食品
(食品ロス＝フードロス)

経済的な貧しさ
人間関係の貧しさ
孤立・疎外感
生活困窮世帯や
子ども食堂など

フードバンクとは

コロナ禍での格差と貧困の拡大は、全世界で悪化の一途をたどっています。日本でも子どもの７人に１人が、ひとり親家庭では50.8%が貧困です。久留米市の就学援助率は26.8%(2018)です。その一方で膨大な量の食品が廃棄されており、その総量は食品全体の1/3にも及びます。そのうち数割はまだ十分食べられるのに様々な理由で廃棄されています。この「食品ロス」削減と貧困の橋渡し活動をするフードバンクは、今から半世紀以上前にアメリカで産声を上げ、欧州各国、アジアでは韓国などにある民間セーフティーネットのひとつです。

日本では、2002年東京でのフードバンク設立に始まり、今では全国で130団体以上が活動しています。国によっては、国や自治体が法的・財政的に手厚い支援をしていますが、日本でのフードバンク活動は、公的支援は不安定で少なく、ほぼ市民ボランティアの善意の労力と募金・食品寄贈等で支えられてきました。ようやく2019年に「食品ロス削減推進法」が成立・施行されたものの、この法律に明記されているフードバンクへの具体的支援策はこれからです。

福岡県下では、2013年にフードバンク北九州が、2016年にフードバンク福岡と「ふくおか筑紫」、2017年4月29日に任意団体「フードバンクくるめ」が、その後は糸島、大牟田、飯塚が続々と設立されました。

フードバンクくるめは企業・団体・個人から寄贈された食品を、現在子ども食堂15・地域食堂５・児童福祉施設１・障がい者福祉団体と障がい児デイケア８・ひとり親団体２・無料塾１・社会福祉協議会７・子どもの居場所２・路上生活者支援団体２・大学など63団体に無償提供しています。2020年度は57トンを取扱ってきました。全国1,700以上のお寺団体「おてらおやつクラブ」からも度重なる寄贈も受けております。

また、みのう農民組合と連携して、農産物の提供だけの一方通行ではなく、親子での柿収穫体験会を開催するなど目に見える“双方向の架け橋”になることをめざしています。 （2022.１）

フードバンクくるめは自前の広い倉庫(150坪)と事務所 (10坪)、プレハブ型冷凍庫、冷蔵庫、玄米保冷庫、精米機、市の補助金で特注した大川産木製棚を久留米市城島町に保有しています。

恒例の毎年11月の柿収穫体験会

フードバンクくるめから皆さまへのお願い

コロナ禍での子ども弁当

食品の寄贈

提供企業に優遇税制開始 2019年4月からフードバンクへの寄贈は全額損金算入に

食品関連企業の方　ご連絡 → 合意書締結 → 受取 → フードバンクくるめによる配布

団体や一般の方　ご連絡 → 倉庫・現地での受取 → フードバンクくるめによる配布

ボランティア支援

1週間に数時間でも結構です

- 食品の引取り、賞味期限の確認・分類、整理・陳列・データ入力
- 食品の引渡し、配達
- 会計・チラシづくり・その他の事務作業・倉庫の清掃
- 新たな食品寄贈企業の開拓

企業の支援

物品の支援（貸与も）　トラック、冷蔵車、冷凍車など

運送支援　大量の食品の輸送、個々の配送支援

企業内・外でのフードドライブ

フードバンクを支える会員募集

正会員：年会費5,000円 (会の目的に賛同し、会費をもって運営支援し、総会での議決権を持ちます。)

学生会員：年会費1,000円 (学生であって、会の目的に賛同し、会費をもって運営支援し、総会での議決権を持ちます。)

賛助会員：年会費１口2,000円 (会の目的に賛同し、会費をもって運営支援します。何口でも可。)

団体会員：年会費20,000円 (団体であって、会の目的に賛同し、会費をもって運営支援します。)

フードバンクくるめ 城島倉庫&事務所
〒830-0207 久留米市城島町城島689番2
電話/Fax：0942-62-2896
携帯：080-6118-5285（浦川）
ホームページ：fb-kurume.com
メール：info@fb-kurume.com

お金の支援

継続的な支援として　正会員、学生会員、団体会員になる

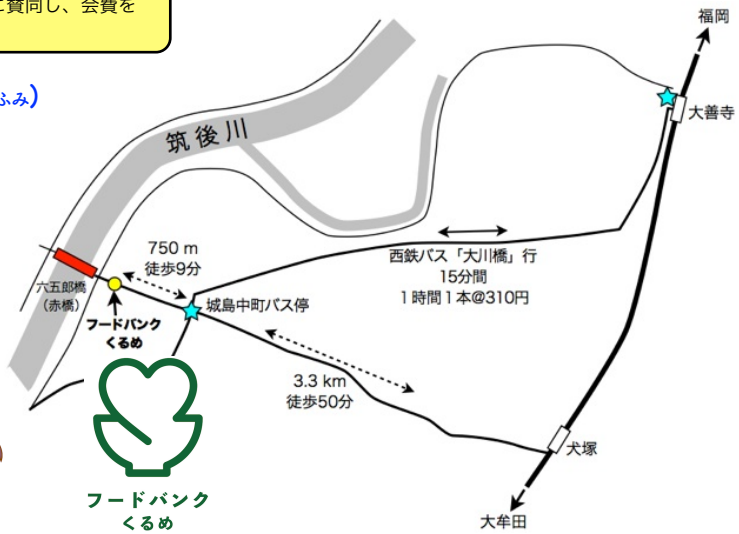
今回のみの支援として　ゆうちょ銀行口座への御振り込み

フードバンクくるめ　（会計担当:馬場浴文ひろふみ）

ゆうちょ銀行　店番：七四八

普通口座　8818501

食料支援を受けたい方

団体・福祉関係の方　ご連絡 → 合意書の締結 → 食品配布

個人の方　現在個人宅への直接配送をしておりませんが、支援団体を通じての間接支援は可能です。